

受 令和 7 年 11 月 19 日
付 午前・午後 9 時 00 分

一般質問（代表 個人） 通告書

令和 7 年 11 月 19 日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 大島 も え

尾張旭市議会会議規則第 50 条第 1 項の規定により、2 月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 4 件

2 質問方法

	1 回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項（大項目）ごとに一問一答
○	1 回目から 質問事項（大項目）ごとに一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



<p>質 問 事 項</p> <p>No. <u>1 - 1</u></p>	<p>「自分とは違う誰かの視点に立ち、行動する人になる」ためのユニバーサルマナーの視点を取り入れた市役所業務改善と職員マインドの醸成について</p>
<p>要 旨</p>	<p>ユニバーサルマナーは、「自分とは違う誰かの視点に立ち、行動する」ための実践的マナーであり、ユニバーサルマナー検定は知識偏重ではなく“行動変容”を重視した研修として、自治体を含む1,000社以上で導入されています。</p> <p>受講者の98.3%が自信を持って一步を踏み出せるようになったと回答するなど高い効果を示しています。</p> <p>私自身、検定3級を受講した際、車椅子利用者をテーブルに案内する場面での対応について大きな学びがありました。</p> <p>これまでは「椅子をどかしてスペースを作ること」が配慮だと決めつけていましたが、実際には、「車椅子のまま座りたい」のか「テーブルの椅子に移って座りたい」のか本人の選択を“必ず伺う”ことこそ適切な配慮であると知り、思い込みによる誤った気遣いをしていたことに気付かされました。</p> <p>この“当事者の選択を尊重する視点”は、市民と日常的に接する市役所職員にも不可欠であり、窓口対応のみならず、文書作成や広報、事務改善の在り方にも深く関係してくると思います。</p> <p>例えば実務の中には、申請書等の書類に「余白がなく読みにくい、逆に行間が大きすぎて視線が迷う、記入欄が小さすぎて文字が入りきらない」など、市民が不便を感じるフォーマットが現実存在しています。</p> <p>こうした“市民視点の不足”を解消するためにも、ユニバーサルマナーの視点を組織全体で取り入れていく必要があると考え、以下質問します。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項

「本市財政状況の急激な悪化」情報の発信強化の背景と、公共
施設維持管理における行財政改革の具体化について

No. 2

要

211

- (1) 財政悪化情報発信の背景と実態について
- 近頃、本市では「財政悪化」を強調した情報発信が増えておりますが、税収は毎年微増している状況です。
- このような情報発信の強化に至った背景、財政指標の変化、基金残高や扶助費の動向、大規模投資計画など、財政を圧迫している具体的要因の有無について確認します。また、住民にどのようなメッセージを意図しているのかについて、その目的と担当部局内における検討過程について伺います。
- (2) 公共施設維持管理におけるコストの見える化の導入可能性について
- 愛知県知多郡東浦町の例にある「行政コスト表示板」のように、施設ごとの年間維持管理費、住民一人当たりの負担額、維持管理費に占める使用料収入割合を表示する手法は、住民の理解を深め、行財政改革の推進に資するものと考えます。
- 本市において、同様の取組の導入検討や課題について伺います。
- (3) 公共施設維持管理の具体的計画と住民理解の醸成について
- 公共施設等総合管理計画の進捗状況、老朽施設の更新・統廃合・長寿命化の方針及び費用削減の見込みについて伺います。また、住民参加や情報公開を通じ、行財政改革に対する住民の理解と協力を得るための方策についても伺います。

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項

所有からシェアへ（自前持ちからシェアする自治体経営へ）

No. 3

(1) 尾張あさひ苑などの広域シェアについて

尾張あさひ苑などについて、周辺自治体との広域シェアにより、施設運営の合理化と住民サービスの利便性向上を両立させる考えについて伺います。

(2) 市民プール、文化会館、図書館などの施設の強みを生かした有効活用と利用促進について

市民プールや文化会館、図書館などについて、複数市での利用促進の仕組みの導入等によって、施設それぞれの強みを生かした有効活用と利用者拡大によるWIN-WINの関係構築について伺います。

（３） 合理化と利便性の両立に向けた具体策について

広域シェアを通じ、自治体経営の合理化と住民サービスの利便性向上を両立させる具体的方策について伺います。

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項

自主自律型学校運営と校内安全・ハラスメント防止について

No. 4 - 1

(1) 教員によるハラスメント防止の際に必要な視点について

児童・生徒に対して心理的・身体的なハラスメントと受け止められる事案は「指導」の名の下に見過ごされやすく、学校文化として固定化される危険性があります。

教育委員会及び学校組織には、ハラスメントに関する意識改革と再発防止の仕組み作りに際して以下の視点が重要と考えます。

必要な視点について市の御所見を伺います。

要

1. それ自体が容認されてはならない行為であること

「昔は普通だった」、「指導の一環」といった言い訳は通用せず、学校は人権を尊重する社会の模範となるべきです。

III]

2. 被害の「認知力」を育むことの重要性

被害を受けた児童・生徒が自ら「これはおかしい」と気付ける力を育むことが、教育の重要な役割です。教員も自らの言動を省みる感性と人権意識を常にアップデートする必要があります。「無自覚な加害」は決して免責されません。

※ 申し合わせ事項に留意する。

III]

6

※ 申し合わせ事項に留意する。

III

8